



Paper

TODAY'S RACE Rd.1
AUTO POLIS
5.18 SAT/19 SUN

RACE ARCHIVE
Rd.1
SUZUKA CIRCUIT

INTERVIEW

Sena SAKAGUCHI #39

38号車 ドライバー 阪口 晴南

良い感触が
あった

#2 **Win is Right**



INGING
MOTORSPORT®

SUPER FORMULA 2024 VERTEX PARTNERS CERUMO • INGING RACE REPORT

www.inging.co.jp



news paper#2 2024

SUPER FORMULA
P.MU/CERUMO INGING
RACE REPORT

Take Free Paper. VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING RACE REPORT Season 2024.

Win is Right

RACE ARCHIVE

Rd.1 鈴鹿サーキット
SUZUKA CIRCUIT

3月10日(日) 天候：晴れ 路面：ドライ
決 勝
いよいよ三重県の鈴鹿サーキットで 2024 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権の開幕

を迎えた。今季、チームは新たなパートナーが加わり VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING という新たな名称で臨むほか、新加入ドライバーとしてこれまでライバルとして戦ってきた大湯都史樹、さらに新たなエンジニアがチームに加わり、阪口晴南とともにフレッシュな体制でシーズンに挑む。阪口晴南のポールポジションに沸いた3月9日(土)の予選日を終え、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は今季開幕レースとなる3月10日(日)の決勝日を迎えた。土曜も厳しい冷え込みとなった鈴鹿サーキットだったが、予選後も雪が舞うなど、決勝日の鈴鹿も肌寒い天候となった。

ポールポジションからスタートした阪口

午後晴天に恵まれ、2万人ものファンが見守るなか迎えた午後2時45分からの決勝レース。気温12度/路面温度22度というコンディションのもと1周のフォーメーションラップを経て、いよいよ決勝の火ぶたが切られてスタートした阪口は、蹴り出しは悪くなかったものの、気温の低さから伸びが悪く、2台にかわされ3番手で1コーナーに入っていく。一方、大湯はグリッドどおりの18番手で1周目のレースを戦っていった。

2台がS字クラッシュ

そんな中、後方では13番手からスタートしていた#4小高一斗と#20国本雄資が11番手を争うなかS字で接触し、2台がクラッシュ。セーフティカーが導入されることになった。その混乱にも乗じ、大湯は15番手にポジションを上げたものの、やはり予選からの悪いフィーリングは変わらず。決勝ペースも悪戦苦闘することになった。

リスタート、阪口は3位をキープ

レースは6周目にリスタートを迎えるが、阪口は表彰台圏内の3番手をキープ。一方の大湯は、前方の#50木村偉織からはやや離れていたものの、#14大嶋和也、そして2023年のFIA F2チャンピオンである#19テオ・ブルシェールを抑えながらレースを進めていった。ただ11周目には#14大嶋に、12周目には#19ブルシェールに先行を許してしまう。やはり地力のペースが影響してしまっていた。

2台はペースの悪さに苦しめられる

VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING 勢は序盤にセーフティカーが入ったこともあり、タイヤの消耗が少なかったことから阪口、大湯ともにピットインのタイミングを遅らせる戦略を採っていたが、レース中盤も2台はペースの悪さに苦しめられた。先行してライバルたちがピットに入っていたことから阪口は首位でレース中盤を戦っていたものの、19周を終えてピットインすると、先にタイヤ交換を済ませていたライバルたちの先行を許してしまう。阪口は8番手で、21周を終えてピットインした大湯は17番手でレースに復帰した。

諦めることなく追い上げを狙う

終盤、8番手の阪口は諦めることなくフレッシュなタイヤで追い上げを狙っていく。前方では6番手の#8福住仁嶺、7番手の#65佐藤蓮が争っており、阪口はこれを追撃。ブッシュを続けていった。ただ、ニュータイヤを履いた状況でもなかなか阪口はペースを伸ばすことができず、2台の争いに追いつくことができません。終盤1台がピットインしたこともあり、ひとつ順位を上げたが、7位でフィニッシュすることになった。入賞圏内ではあるが、やや悔しさが残るレースともなった。

苦戦した大湯 得られた進歩

一方の大湯は、スタートからフィニッシュまでペースに苦戦。最後は16位でチェッカーを受けた。ただ、順位以上に大湯の表情は深刻。次戦オートポリスまでは2ヶ月ほどのインターバルがあることから、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は、さらなる改善とチーム底上げを目指し、開幕戦で得られたものを活かしていく。

INTERVIEW#2

Sena SAKAGUCHI

良い感触があった

スタートは良い感触があったのですが、冬の寒さ、さらにポールポジションでグリッド上で待たされたことに引きずられてしまった感じがありました。とはいえ、今回気温が低かったことで、次戦以降はこれに影響されすぎないようにしたいです。今回の決勝については、まずはレースペースの悪さが順位を落とす要因になってしまいましたし、作戦もうまくいきませんでした。もう少しいったとしても5位だったと思うので、ペースが足りないことがいちばんの改善点だと思っています。戦略やチームのコミュニケーションなど、新体制ならではの課題もあったと思いますので、課題は多いです。予選がうまくいきすぎたくらいだということを再認識させられたレースでした。

38号車ドライバー 阪口 晴南

Toshiki OYU

39号車ドライバー 大湯 都史樹

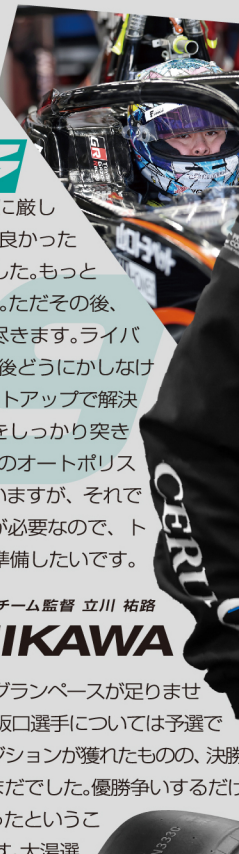
トライをもっと増やす

想以上に厳しいレースになってしまいましたね。スタートは良かったのですが、位置取りで前に詰まってしまいました。もっと順位を上げられた感触もあったんですけどね。ただその後、とにかく決勝ペースが悪すぎました。それに尽きます。ライバルと争える状況にもなっていなかったもので、今後どうにかしなければいけないのですが、今回の苦しい状況をセットアップで解決できるようなところはないと思います。原因をしっかりと突き止めなければレースにならないですね。次戦のオートポリスまでに2ヶ月あり、気温も変わるとは思いますが、それでもかなり問題は根が深そうです。改善が必要なので、トライをもっと増やして、しっかりと準備したいです。

チーム監督 立川 祐路

Yuji TACHIKAWA

2台共にロングランペースが足りませんでしたね。阪口選手については予選ではうまくポールポジションが獲れたものの、決勝についてはまだまだでした。優勝争いだけのポテンシャルがなかったということに尽きるとは思っています。大湯選手については今週ずっと良くなって、正直クルマに問題があるくらいの印象があります。本来こんな位置を走るドライバーではないので、ちゃんとした状況で走らせてあげられなかったのは申し訳なく思っています。次戦のオートポリスまでには2ヶ月のインターバルがありますし、38号車の課題、そして39号車の問題を見直していきたいですし、しっかり準備したいと思います。開幕戦の応援ありがとうございました。



Results	38	予選	1位	決勝	7位	39	予選	18位	決勝	16位
	阪口 晴南					大湯 都史樹				

TODAY'S RACE Rd,1 AUTO POLIS 5.18SAT/19SUN